



nomorefukushima nomorefukushima nomorefukushima

原発といのちを考える会 **WAN** ニュース 1 2

事務局 和光市南 2-1-12-401

Mail: nomorefukushima.wan@gmail.com

2018・4・24

学校給食食材の放射性物質測定への取り組み

平成 25 年～平成 29 年の経過報告

福島原発事故から2年経った平成25年、「WAN さろん（自由な市民交流の場）」に集まった小学生の保護者から、和光市学校給食の放射性物質測定の方法に、疑問や不安の声が寄せられるようになりました。

その当時、和光市では食後に、1週間分をまとめて検査をしていました。牛乳も汁物も1週間分の献立メニューをすべて混ぜて測定するのです。

しかし、そのような方法では「汚染された食品を事前に回避できない」「汁物も入れてしまうと、希釈され、測定精度が低くなってしまう」等々の問題が出てきます。

そこで、WAN では「給食が提供される前に検査をすることができないか?」「心配の声が多数上がっている牛乳に関しては個別に検査してほしい」「汚染が頻繁に確認されている食品は単品で検査してほしい」等々の要望をまとめ、市長への要望書を提出。和光市教育委員会と協議を重ねてきました。

WAN と和光市で試験測定

その結果、平成 26 年度より WAN と和光市共同の学校給食食材の単品検査が 3 ヶ月の試験測定という形で開始されました。



<プロセッサで刻む>



<測定器>

具体的には、給食の献立表をもとに、単品測定する食材を選定し、週 1 回市役所 6 F 産業支援課に設置されている放射性物質測定器で測定するというものです。

測定する食材が給食に提供される日の朝、WAN のメンバーが市から指定された小学校に食材を取りに行きます。そのままでは、測定できないので、測定器のある市役所の水場をお借りし、フードプロセッサで切り刻みます。刻み終わった状態のものを職員に渡し測定開始となります。

「ヨウ化ナトリウムシンチレーション検出器」という測定器で、食品にどれくらいのセシウム 134 及びセシウム 137 が含まれているのかを測定します。シンチレーション検出器では、測定の“検出限界値”（これ以下の数値のセシ



<市への要望>

ウムが含まれていても検出不可という値)が、高精度のゲルマニウム器に比べ高めに設定されています。また、市の測定時間も約30分間と短いため、食品に余程多くのセシウムが含まれていない限り、検出結果は「不検出」となることが多いです。それでも測定してみなければ食品に汚染があるかどうかは分かりません。

試験期間の3ヶ月間に測定した食材は、4月：レンコン・水菜・エリンギ、5月：牛乳・大豆水煮・スキムミルク、6月：ブナシメジ・キャベツ・チンゲン菜・にらの全10品でした。和光市が測定用に食材を1キロ余分に購入してくださり、実現したものです。これらの測定で特に数値が高いものがなかったという結果から、この測定は打ち切りとなります。試験的運用であったため、測定したい食材の全てを測定できたわけではありません。また余りに期間も短く不十分でした。

WAN 単体での測定開始

WAN としては、その後も測定を継続したい旨の要望を出しましたが、予算がかかることを理由に退けられました。その後、粘り強く協議を重ねた結果、測定する食材を WAN にて購入するのであれば、測定継続は可能との回答。それを受け、食材購入を予算化し、同年9月：梨・こんにゃく、10月：もち米・サツマイモ、11月：おから・豚レバー、地粉、12月：レンコン・鮭・里芋。翌平成27年1月：ぶり・カブ、2月：まいわし・ブロッコリー、3月：菜花、5月：かつお・まいわし、7月：鮭、10月：さつまいも、12月：まいわしの測定を行いました。

単品・事前測定を再要望

そんな中、原発事故から5年後の平成28年5月、宇都宮市の学校給食で提供されたタケノコから基準値(100Bq/Kg)を超えるセシウムが検出される事態がおこりました。驚きの事件でしたが、これも摂食後とはいえ食材単品での測定を行っていたからこそ判明したものです。これらのことを受け、再度和光市に給食食材の単品測定継続と事前測定を求める要望書を提出し、市長・教育長・教育委員会と協議しました。結果は、「今後も単品・事前測定検査については実施の予定がない」との回答でした。

給食測定結果と考察について質問

それでは、和光市が以前から実施している、食後の給食1週間分をまとめて測定した検査結果データはどのようになっているのか。またその結果に対し、どのような考察がなされているかの質問を行いました。

市の回答は、平成24年1月11日分の給食から平成28年11月11日分までの内部被ばく量の累積が、サンプル数値で小学校がCs-134:398.1Bq・Cs-137:427.3Bq、中学校がCs-134:445.1Bq・Cs-137:489.8Bqでした。これを受けての市の見解は、「1年間の自然放射線被ばく量である2.4mSVと比較して極めて影響が少ない」とのことです。

しかし、食品からの被ばくは、内部被ばくとなり、セシウムが体内に残って影響を与え続けることから、外部被ばくである自然放射線とは被ばく形態が異なります。また食品からの内部被ばくにおいて、体内に取り込まれる人工の放射性物質(セシウム等)と自然界にあるカリウム40等の放射性物質との違いは考慮されていません。以上のことから、和光市が出したデータ結果の数値が「極めて影響が小さい」と証明する根拠はないものと思われます。

食材産地事前公開要望

子ども達の健康被害を心配し、食材の産地だけでも保護者に事前公開してほしい旨も要望しました。市の回答は、青果物等、予定されていた産地のものが変更になることがあり、事務が煩雑になるとの理由から却下されました。

また、毎月保護者に配布される「給食献立表」の裏面に記載されていた先月分の食材産地表も「印刷代と職員の時間が取られるため」との理由で削除され、平成 29 年度より各学校 HP のみの記載となっています。

給食測定を大幅削減

その上、上記データが検出された、週 1 回・給食 1 週間まるごとの測定も、29 年度からは各学期に 1 回の測定に減らされ、予算削減・縮小方向となっています。以上のように和光市の対応と、WAN が要求するものには大きな隔たりが生じているのが現状です。しかしチェルノブイリ事故の結果を見ましても、事故後 30 年以上経った現在においても食品汚染がみられるものもあり、今後の影響においては注視し続ける必要があると思います。

<平成 25 年～平成 28 年の経過>

平成 25 年 8 月	「給食の食前の放射性物質検査についての要望書」提出
〃	市長・教育長と協議
11 月	「市長と話そう」にて学校給食の放射性物質検査要望の市民の声を伝える
平成 26 年 1 月	教育委員会との給食食材測定（仮）についての打ち合わせ（第 1 回）
3 月	学校教育課担当者との打ち合わせ（第 2 回）
〃	教育委員会・教育長との面談・市民活動推進課との面談
4 月	市長・教育委員会・環境部等との面談→週 1 回の 3 ヶ月試行測定決定 WAN・和光市共同での 3 ヶ月試行測定開始（4 月～7 月）
7 月	給食食材の事前測定継続の要望書提出 和光市の「放射性物質簡易測定事業」が始まる（市民が持ち込む食材を対象とした放射性物質簡易測定）
9 月	WAN 単体での給食食材測定開始（「放射性物質簡易測定事業」を利用した測定スタート）
平成 27 年	WAN 単体での給食食材測定継続
1～3 月	WAN さろんにて「学校給食おはなし会」開催
平成 28 年	7 月 宇都宮市学校給食での基準値超え食材の提供発覚をふまえ再度「単品・事前測定」についての要望書提出 →教育委員会より、今後も「単品・事前検査」はしない旨回答
11 月	和光市の給食（提供食）測定の検査結果と考察について質問と 給食食材産地の事前公開について要望書提出
12 月	教育委員会より、上記要望書の回答を受け、確認書の提出と面会要請
平成 29 年	2 月 市長・副市長・教育長・環境部長他と会見 給食における内部被ばく量の結果回答、食材産地の事前公開不可の回答
4 月	市が学校給食の放射性物質測定の実施を大幅削減（週 1 回→学期に 1 回に変更）
6 月	市の学校給食の放射性物質測定の測定方法の変更や献立表の産地記載の削除についての質問書提出
7 月	教育委員会より、給食の測定が学期ごとに小・中学校 1 校ずつの実施に方針変更との回答。産地公表については各校 HP に記載

以上、詳細につきましては下記 HP も合わせてご覧ください。

『学校給食を考える会@和光』HP : <http://mamorukai-wako.jimdo.com/>

◆平成 30 年度定期総会&市民公開講演会のお知らせ◆

5月26日(土) 中央公民館会議室1

午後1時30分 平成30年度定期総会

午後2時15分~16時30分 講演会

原発事故から7年
—子どもたちの暮らしと健康—
in 埼玉



講師：川根眞也氏

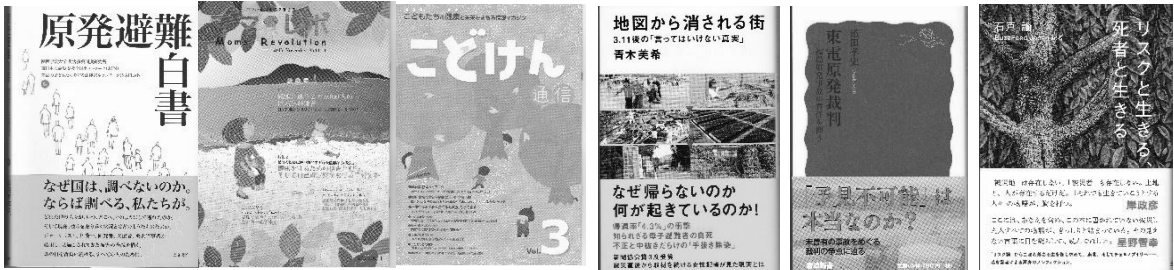
後援：和光市・和光市教育委員会

資料代：300円(会員無料)

申込み不要 どなたでもご参加いただけます。
当日会場にお越しください。
総会の傍聴もできます。

元さいたま市中学校教員(理科) 2011年3月14日から身の回りの空間線量率を測定し始め、記録したノートは119冊にのぼる。2011年8月「内部被ばくを考える市民研究会」を設立。放射能防御プロジェクト。

●もっと知りたい! 人のための本棚●



人文書院

ママレボ出版局

子どもたちの健康
と未来を守るプロ
ジェクト

講談社現代新書

岩波新書

亜紀書房

※訂正とおわび/WANニュース11号で「帰宅困難地域」は「帰還困難地域」の誤りでした。訂正してお詫びします。

「原発といのちを考える会WAN」は、2011年11月に、W(和光)、A(朝霞)、N(練馬)の市民が、エネルギー政策や原子力発電の問題について、主体性を持って判断し行動していくことをめざして設立されました。

WANサロンは、毎月第4火曜日10時~12時に中央公民館で開いています。時間内どなたでも出入り自由、お子さんづれOKです。年会費1000円。

連絡先 048-463-9964(鈴木) / 080-5684-8222(待鳥)